

ふるさと再発見

景華園遺跡の支石墓掌石

中野町の国道251号線に面して、大きな四角形の石があります。

この石は弥生時代の首長の墓で、朝鮮半島に見られる支石墓の流れをくおものと思われる。支石墓とは大型で扁平な石を数個の石で支え、その下にかめ棺や、石室などの埋葬施設を持つものです。掌石とはこの支石墓の上石のことで、昭和54年に市の文化財に指定されました。島原城本丸にある掌石も景華園遺跡から運ばれたものです。

この一帯は、江戸時代の藩主別邸「景華園」で、寛政4年（1792年）の島原大変のときには、時の藩主が一時ここへ移っています。



屋敷の建設中に大きな石を動かしたところ、その下から銅剣が出てきたと

いう記録があります。また、島原鉄道や国道の建設のときにもさまざま出土品があったといわれ、そのうち銅剣二本が長崎県立博物館（長崎市）に保管されています。さらに、昭和32年水害時にも銅剣が出土しており、市教育委員会が保管しています。



景華園遺跡や周辺の遺跡で実施された発掘調査で、弥生時代中期から後期にかけての弥生土器が出土しており、丹塗り土器など祭祀に使われた土器は北部九州的な特徴があり、その他の土器は中部九州的な特徴が見られます。また、遺跡の広がりには、有明町一野付近までがその範囲であったと思われる。複数の銅剣や、巨大な支石墓などからこの地一帯が大規模な弥生時代の一大集落であったと想定されます。

クローズアップ Close Up!

「島原市食生活改善推進員協議会」

みなさんは、食事を取るときカロリーや栄養バランスを考えながら食べていますか。

今回紹介するのは「食」を通じた健康づくりの普及啓発活動を行っている島原市食生活改善推進員協議会（以下「食改」の皆さんです。

食改の主な活動は、食事バランスガイドの普及、乳幼児のおやつづくり、男性の料理教室、高齢者の食事づくりなど幅広く行っており、現在93人の推進員の人がいます。

食改会長の佐原トキエさんは「食を通して、食べる楽しみや子どもを育てる楽しみを感じて



もらいたいですね。また、仲間が仲間を呼び、皆さんがたくさん集まって、楽しそうにしているのを見ると嬉しいですね」と話してくれました。

6月には、このような地域活動の功績が認められ、県知事から感謝状をいただいたそうです。



感謝状を受けたことを市長に報告したときの様子

これからも、市民の健康づくりの担い手として頑張ってください。

食改の活動に興味がある人や料理教室に参加したい人は島原市食生活改善推進員協議会事務局（市保健センター内）☎6477133へ。